



消防団員の確保対策などについて協議

東北地区消防連絡協議会

平成三〇年度東北地区消防連絡協議会は七月一九日(木)、新潟市「ANAクラウンプラザホテル」を会場に、東北地区七県(新潟県を含む)の消防協会から会長、副会長、事務局員ら五九名が出席して開催されました。秋田県消防協会からは、正副会長はじめ六名が出席しました。

新潟県知事(代理)と新潟市長(代理)の祝辞に続き、前年度要望事項について青森県消防協会から処理報告が行われた後、議事に入り、各県から提出された照会事項などについて熱心に協議されました。

本県から提出した「新・日本消防会館建設に対する消防関係者の協力について」、中田会長が提案理由を述べております。

協議終了後には、「糸魚川市駅北大火からの教訓」と題して、糸魚川市消防団長 斉藤直文氏の講演がありました。また、本協議会は来年度山形県で開催することに決まりました。

題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp
印刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

前年度要望事項の処理報告

一 消防団員の確保と活動の充実について
(県税の特例条例の設置)

□ 要望先…総務省消防庁
□ 回答要旨

現在「消防団協力事業所表示制度」の普及を進めているところであり、一部地方公共団体においては、消防団協力事業所に対する法人事業税の減税や、入札における加点等の取組も行われており、こうした取組を進めるよう地方公共団体に働きかけています。

また、平成三〇年度概算要求には、都道府県や市町村が地域の企業と連携して消防団員を確保する取組を支援する事業を計上しています。

二 消防団の装備充実に向けた支援の強化について

□ 要望先…総務省消防庁
□ 回答要旨

安全靴やライフジャケット等の消防団員の安全確保のための装備、トランシーバー等の双方向の情報伝達が可能な情報通信機器、チェーンソーや油圧ジャッキ等の救助活動用資

平成三十年全国統一防火標語

忘れてない？ サイフにスマホに 火の確認

機材の充実を図るため、平成二六年二月に、「消防団の装備の基準」の大幅な改正を行ったところであり、装備品に対する交付税措置を大幅に引き上げてきました。

地方交付税措置額に照らして十分な予算を確保し、一層の消防団の装備の改善を集中的・計画的に進めていただくよう、地方公共団体に対して働きかけています。

三 消防団応援の店について

□ 要望先…(公財)日本消防協会
□ 回答要旨

消防団応援の店につきましては、全国各地の消防団関係の方々のご努力と地域の商店経営者等のご協力によつて順調に増加しております。

ご要望のありました全国展開をしている大型店舗に応援の店になって頂くということにつきましては、ご要望の趣旨はよく理解できるのですが、一般的に申しあげて、そのような大型店舗は、幅広い多様なお客を対象とした販売拡大の戦略戦術を展開していますので、消防団員のような特定のお客だけを対象とする特別のサービスを実施していただくことは、むずかしさがあるようです。

したがって、直ちにご要望に沿うことは難しい面がありますが特定の商品を扱う全国展開の店舗のなかには、理解を示している例もあるようですので、今後とも情報収集に努力します。

照会事項

- 一 平日の日中に活動できる団員の確保について 《青森県》
- 二 消防団員確保事業の取組みについて 《岩手県》
- 三 消防団員・女性消防団員の確保対策について 《宮城県》
- 四 新・日本消防会館建設に対する消防関係者の協力について 《秋田県》



- 五 互助会の制度について 《山形県》
- 六 消防団の救急業務対応について 《福島県》
- 七 県議会議員との情報交換について 《福島県》
- 八 消費税増税に伴う運営費の確保について 《新潟県》

消防救助技術秋田県大会

秋田県消防長会

第四七回消防救助技術秋田県大会(秋田県消防長会主催)が六月一四日及び七月三日の両日開催され、出場隊員は日頃鍛えた救助技術を競いました。

六月一四日秋田県立総合プール(秋田市向浜)で開催された「水上の部」には一〇消防本部から延べ四三人が、また七月三日秋田県消防学校での「陸上の部」には、一三消防本部から延べ二六八人が出場しました。

「陸上の部」開会式で、佐藤好幸秋田県消防長会長は、「これまでの訓練



成果を遺憾なく発揮され、この後の東北指導会、全国大会へと繋げていってほしい。」と挨拶しました。なお、東北指導会は「水上の部」が七月一九日に宮城県利府町で、「陸上の部」が七月二五日新潟県新潟市においてそれぞれ開催されました。

■全国大会(陸上・水上)

平成三〇年八月二四日 京都府京都市

全国大会・東北指導会出場隊

〔全国大会〕 ◇陸上の部

| 種 目 名 | 消防本部名 | 隊員(チーム)名 |
|-----------|------------|-----------|
| ロープブリッジ渡過 | 北秋田市消防本部 | 佐藤 健 翔 |
| はしご登はん | 秋田市消防本部 | 京野 晃 一 |
| ほふく救出 | 秋田市消防本部 | 佐藤 賢治 チーム |
| ロープ応用登はん | 大曲仙北広域消防本部 | 倉橋 重吾 チーム |

〔東北指導会〕 ◇陸上の部

| 種 目 名 | 消防本部名 | チ ャ ム 名 |
|-----------|------------|------------|
| 引 揚 救 助 | 能代山本広域消防本部 | 佐藤 正博 チーム |
| | 北秋田市消防本部 | 佐藤 洋平 チーム |
| | 秋田市消防本部 | 菅 雄哉 チーム |
| ロープブリッジ救出 | 大曲仙北広域消防本部 | 小松田 知至 チーム |
| | 男鹿地区消防本部 | 石黒 篤 チーム |
| | 横手市消防本部 | 佐藤 直也 チーム |
| 障 害 突 破 | 秋田市消防本部 | 泉谷 仁紀 チーム |
| | 横手市消防本部 | 小田嶋 理嗣 チーム |

◇水上の部

| 種 目 名 | 消防本部名 | 隊員(チーム)名 |
|-------------|------------|----------|
| 複 合 検 索 | 秋田市消防本部 | 栗山 和正 |
| | 五城目町消防本部 | 菊地 航平 |
| 基 本 泳 法 | 横手市消防本部 | 鈴木 貴大 |
| | 鹿角広域消防本部 | 湯瀬 啓祐 |
| | 鹿角広域消防本部 | 高野 隼一 |
| | 鹿角広域消防本部 | 湯沢 健太 |
| | 由利本荘市消防本部 | 佐々木 智樹 |
| | 鹿角広域消防本部 | 大森 依志 |
| 溺 者 搬 送 | 能代山本広域消防本部 | 伊藤 雅道 |
| | にかほ市消防本部 | 佐々木 チーム |
| 人 命 救 助 | 男鹿地区消防本部 | 荒木 チーム |
| | にかほ市消防本部 | 三橋 チーム |
| 溺 者 救 助 | 男鹿地区消防本部 | 木元 チーム |
| | 由利本荘市消防本部 | 真坂 チーム |
| 水 中 結 索 | にかほ市消防本部 | 佐々木 チーム |
| | 湯沢雄勝広域消防本部 | 阿部 チーム |
| 水 中 検 索 救 助 | 大館市消防本部 | 加賀谷 チーム |



第14回 消 防 団 員 意見発表会(一)



戸巻 拓己
・横手市大雄消防団
班長
・勤続十二年
・公務員

自らが消防団事務を担当していた際に入団、現在は市の実験農場に勤務し、農業の振興に努めている。

「慣れない、楽観しない。そして忘れない！」

「チャンチャンチャン！チャンチャンチャン」という音、皆さんも聞き覚えがあるのではないでしょうか？消防ラッパ隊の音、ではなくて携帯電話から災害発生時などに突然鳴り響くエリアメールの音です。一方、同じく携帯電話から突然、「キユーキユー」と鳴るのが緊急地震速報です。

この種の通知。いわゆる「地域に危険が迫っている」という携帯電話のアラームを聞くのはここ近年のことですし、非常に増えていると感じます。地域で火災等が発生した場合、消防本部からメールが届く仕組みになっていますし、班員相互の連絡

は、今やLINEが主流になっています。情報が速やかにやり取りすることが出来る現代社会ですが、便利さの影には危険が隠されているのではないかと、という観点から、意見を述べたいと思います。

まず、緊急地震速報についてです。記憶も薄くなっていると思いますが、東日本大震災が発生した直後から、余震の度に同じ音が何度も鳴り響いたと記憶しています。丁度、東京で電車に乗っていた際に余震による緊急地震速報が流れました。これは「やばいな」と思いつつも、電車内は騒然ともせず平穏で、ただ自分の心だけが大きく揺れていたのを今、思い出します。

二つ目は、エリアメールです。初めて聞いたのが昨年七月のことです。県南部を中心としたこれまでにない豪雨災害。避難勧告情報！河川氾濫情報！という情報がリアルタイムで通知されました。そして八月には、海を挟んだ隣国からのミサイル発射情報の通知。豪雨の際は深夜、ミサイル発射の際は朝早くから携帯電話が鳴ったのは皆さんも記憶に新しいと思います。

これら二点に共通して言えることですが、危険なのは、「慣れてしまおう」という点です。本来であれば身を守る行動をとるための緊急速報なのですが、驚く一方で「ああ、また

か」という思いが駆け巡ります。さらには、通知されたにもかかわらず、具体的な対応策が分からず、身をを守る行動すらとらないケースも多いのではないのでしょうか？

また、一度大きな災害を経験すると、「この前よりはマシだから大丈夫」という勝手な予想を立ててしまいがちです。正直申しますと、今年五月一八日の大雨の際「去年の大雨の時よりも雨の降り方が弱いから、消防団の出勤は無いだろう。」と自らがそう考えてしまったことは反省すべき点です。怖いことは忘れる。嫌なことから目をそらす。良い方向に考える。というのは世の常人の常かもしませんが、防災の観点からするとあつてはならないことだと考えさせられました。

火災、自然災害、それに加えて頭上を飛び越えていく隣国のミサイル。高齢化と人口減少時代も相まって、私たち消防団員の役割が増えると同時に、重要度も増しています。近年増加している自然災害に関して「慣れない・楽観しない。そして忘れない」の三つを肝に銘じる必要があります。そして、具体的な対応策を周知し、いざという時には身を守る行動を実践しなければなりません。

一方、火災の場合、ほとんどが未然に防ぐことができる人災です。私

たち消防団が火災に出動しなくとも良い日々が一番です。地域から火災を絶対に起こさないう強い気持ちで火災予防活動にもより一層、積極的に取り組み、地域の安全と安心に携わる身近な存在として、これからも役割を果たしていきます。



佐藤 章
・湯沢市消防団
団員
・勤続五年
・農業

入団以降、消防団員として積極的に消防団活動に参加し、先輩・後輩からの信頼が厚く、地域の活動にも多方面にわたって活躍しています。

「三種の経験」

六年前の四月、私は二〇年間過ごした関東から、妻と娘二人の四人で、生まれ故郷である秋田にUターンをしました。家業である農業を父から学びながら、手探りの日々は、あつという間に過ぎ、気付けば地元公民館の雪囲いの季節になっていました。この雪囲いの時、私は消防団員に誘われたのでした。曖昧な返事は入団の意思があると思われたようで、三日後には市の消防担当の方が制服を家に届けに来て、靴のサイズを聞かれ、あれよあれよと入団に

至っていました。

それから半年ほど経った頃、私にとつて消防団員として初めて消火活動をやる日を迎えました。その日は早朝から外作業をするため朝五時には起きていました。作業中、先輩の団員が通りかかり、火災が起きたと聞き、一緒に現場に向かうことになりました。現場では家屋と小屋が燃えており、駆け付けた時には既に全焼状態で、くすぶっていた燃え残りの鎮火を言われるまま、見よう見まねで手伝うのが精一杯でした。翌朝、現場の状況を新聞で知りました。この火事で、現場に住んでいた母親と幼い子どもが命を落としたりと載っていたのでした。無我夢中で消火活動をしていたその場所で、人が亡くなっていたとは、想像もしていませんでしたし、とてもショックを受けました。その幼い子どもは娘と年が近く、生きていたなら同じ空間を過ごしていたのだと思うと、今でも胸が締め付けられる思いです。

このこと以外にも、消防団員としての活動をいろいろと経験しましたが、ふと考えたことがあります。もしUターンをしていなかったら？消防団員という経験をしたのだろうか。二〇年間関東で家庭を持ち、過ぎましたが、消防団の活動を目にしたことも聞いたことも、ましてや団員に誘われることもありませんで

した。故郷と前に住んでいた地域と何が違うのだろうか。一番に浮かんでは、「横のつながりの希薄さ」です。特に男性同士の交流は皆無に近いです。新興住宅地でベクトタウンということも大きな原因の一つでしょう。昼間は仕事に出て行くため、会うこともありませんし、休日はそれぞれで家庭で過ごするため、やはり会う機会はあまりありません。私もそういうふうに通っていたと思います。つまり私は異なった二種類の経験をしていることになりました。関東では個々の「個」を。今は連なりの「連」を。「個」は自由で負担も少ないです。「連」は合わせるという負担があるものの、温かさ、強みのようなものを感じられます。それぞれの顔を感じることができません。

「個」だけしか知らなければ今でも何も考えずにそのまま過ごしていたでしょう。でも私は消防団を通して「連」を知ることができました。思えば、消防団員に誘われた公民館の雪囲いも横のつながり、「連」でした。

私の住む地域も実は「個」を選ぶ方が増え、団員の中では私も若手扱いです。「個」と「連」それぞれを経験した私だから思うのです。こんな時代だからこそ「連」も悪くはないと。だからもし次に入団に興味をもつてくれる人が現れた時には、今

度は私が制服と靴のサイズを聞き出そうと思います。私がそうして貰ったように。



亀田 晃

・小坂町消防団
分団長
・勤続三二年
・会社員

団員時には、小型ポンプ操作の選手として活躍し、現在も体力錬成に励み、所属分団以外からも信頼を厚く得ています。

「消防団の今後について」

時が過ぎるのは早いもので、入団してから三〇年を超えました。私の周りにはほとんどが昭和生まれの団員で、平成生まれの団員は数えるほどしかいません。若い世代の団員をどう確保するかが、今後の消防団の運命を握っているのです。そこで、団員確保について様々な方向から焦点を当てたいと思います。

まず、入団促進についてです。私が消防団に入団した当時は、地元にいるなら消防団に入るのが当たり前で、分団の幹部が家に来て勧誘された。私も例に漏れず、流れに乗って消防団へ入団しました。入団した当初は、右も左も分からず先輩達の

言葉が絶対で、自分の意見はなかなか言えないような組織だった事を覚えています。しかし、これでは折角入団した若い団員が去ってしまうと考え、私が分団幹部になった時には、年齢に関係なく、全員が平等に意見を出し合えるような組織作りをしようと思えました。幹部になった今、思い描いた組織になっているかという点、正直なところ、ありません。理由は先に述べていますが、若い団員の入団がほとんどないためです。では、入団促進のためにどうしたら良いでしょうか。私が考える、消防団のセールスポイントは二つあります。

一つ目は消防操法です。訓練大会の花形を全面に押しだそう作戦ではないのですが、やはり、あの独特の緊張感や動作は消防独自のものと感じます。写真だけでなく、動画等でのPRが必要だと考えました。そこで、若者に人気のSNSとの連携を試してみようと思えます。町で管理しているSNSに写真や動画をアップしたり、消防団や分団独自でSNSのアカウントを取得し、配信するのもありだと考えます。フェイスブックやYouTubeではライブ配信といった生放送できる機能もあるの、ネット環境があればどこでも見ることが出来ます。

二つ目は車輛です。他の車にはない特殊性を全面に押しだし、車に興味がある親子を一網打尽にし、しまおう作戦です。町主催の祭典等で消防署と一緒に車輛展示を行い、興味のある子供と一緒に来た親を勧誘し、そのまま入団してもらおうというもの。どちらも、きつかけ作りとして大きな効果があると考えます。

次に再編成です。当団は近年、入団者を退団者が上回る状況が続いており、昨年度一六班あったのが、今年度一五班に減りました。各班の人数にも大きな差があり、最小で二人、最大で二二人となり、可搬ポンプの運用に危険が伴う班があります。今後とも入団状況に変化がないようなら、可搬ポンプを安全に運用できるようどの班も最低でも、班員が五人確保できると考えます。また、高齢化も大きな問題となっており、それを解消するような再編成を行うと班数は八班前後まで減少しますが、各班の人数は最低で一〇人程となり、安全性の確保も十分にできます。

歴史ある我が消防団をこれからも存続し、更に盛り上げていくためには、大きな改革をしなければなりません。それには団と町が力を合わせていく必要があります。連綿と受け継がれてきた消防団の歴史を紡ぐために、今できることを精一杯取り組みたいと思います。

研修を終えて感じたことは、リフト等を使って移動させる時に、少ない力で楽に移動させることで看護側の負担を減らすこと、声掛けをして呼吸を合わせたり、患者さんにコミュニケーションを取る部分等、消防の現場においても重要視される部分と共通していると再認識することができました。

二つ目は、看護師の方々は患者さんとのコミュニケーションが良く取れていると感じました。そして患者さんとの程良い距離感でのコミュニケーションを取っており、患者さんの少しの感情の変化にも気付いていると思えました。消防の業務にお



高橋 駿
秋田市消防本部

第七二期初任教育入校生は二班に分かれ、六月二五日と二六日の二日間、由利本荘市岩城の「あきた病院」で研修を行いました。

この研修の感想文が寄せられましたので紹介します。

72期 初任教
あきた病院での研修を終えて
秋田県消防学校

あきた病院へ行き、重症心身障害、筋ジストロフィー、神経難病の方たちの介護を体験してきた。

自分の周りには障害を持っている人がいなく、あきた病院に着き、その方たちを見るまでどのような障害なのか分からなかった。患者さんと最初の時間触れ合ってみたが、ほとんどの方が車イスで生活していて、呼吸器を付けていないといけない人、筋肉が緊張しており、体が動かせない人など様々な方がいた。話しかけても返事が返ってくるこ



戸時 拓哉
にかほ市消防本部

る救急隊員は、看護師の方々のように長期間にわたり、患者さんと接するわけではないのですが、患者さんや家族の不安を少しでも取り除くことができるコミュニケーション能力を身に付けていきたいと思いました。

最後に、神経難病で上手く話すことができない患者さんから「一人でも多くの人を助けて下さい。」という言葉をいただき、胸に強く響きました。消防学校入校中や所属に戻ってから訓練に励み、一人でも多くの人を助けたいとさらに強く思い、あきた病院で実習を行って本当に良かったと思えました。

とはなく、コミュニケーションが取れずに介護の大変さが分かった。救急や救助でこのような方たちの現場に行き、何も知らずに活動すれば骨などを折ってしまう可能性もあるので、障害の特性を把握することが大切だと思った。

昼食を食べさせる介護も行った。最初は上手く食べさせることができていたが、後半から食べたものを戻したりして、全部食べさせるのに三〇分程かかってしまった。一人一人食べるものが違っていたり、自分一人でスプーンを持ち食べられる人もいたので、介護する人もその人の特徴を考えながらしないといけないと感じた。

今回の実習を終え、消防士として傷病者の方を助ける際に相手の状態を考えて活動することを再認識できた。介護できた体験を忘れることなく、これからも人の役に立てるように活動していきたい。



佐々木 卓人
鹿角広域行政
組合消防本部

私は、あきた病院での研修で重症心身障害児者の南一病棟で食事介助や患者の移動の手伝い等を行った。研修では、患者に自己紹介と一緒にボウリングゲームを行ったり重症心

身障害児の方たちとより近くで触れ合うことができた。

この研修で、私は言葉以外のコミュニケーションの難しさを感じた。普段私たちは言葉を交わすことでコミュニケーションをとっている。しかし、重症心身障害児の大半の方は言葉によるコミュニケーションがとれず、表情や身振り手振りによって表現するしかない。また、自分で身体を支えることも難しい人は、身振り手振りで表現することができないので、さらにコミュニケーションをとることが難しい。患者の表情から患者が何をしたいのか読み取る看護師の観察力はすごいと思った。

私たちも火災現場や救急現場に出場した際に、周囲の状況や傷病者の状態をよく観察する力を身に付けなければいけないと感じた。私たちが救急出場で重症心身障害の方と接する時に、本人が言葉によるコミュニケーションをとれない場合は、表情などから状態を判断しなければならぬ。そのためには言葉以外の様々なコミュニケーション方法を身に付けることは非常に大切だと改めて思った。

今回の研修では、普段触れ合うことのできない障害のある方と触れ合うことができ、貴重な体験ができて良かったと感じた。



日沼 大樹
能代山本広域市町
村圏組合消防本部

今回、あきた病院に施設実習として私は神経難病の病棟に行きました。神経難病とは神経の病気の中で、はつきりとした原因や治療法のないもので、中枢神経や末梢神経が障害されるため、自分の意思で動くことや、意思表示することが難しい病気です。原因や治療法が分からないため、あきた病院にいるほとんどの方が生涯をここで過ごすそうです。

病棟に行くとき自分の力で歩くことができない、または、上手くコミュニケーションがとれないといった患者がほとんどでした。そのような方を、今後の消防人生の中で救急搬送する機会があることを考え、看護師の方がどのように接しているか学びました。ゆつくり、はつきり、耳元で呼びかけることで患者さんが理解し、表情を変え、その表情を読み取ることが必要だと思いました。

身体が不自由な中、挨拶を笑顔で返してくれる患者さんを見て私も元気をもらい、消防学校生活をもっと頑張らなれないと感じました。

そして五体満足で生きていることに感謝し、消防吏員として地域に貢献していきたいと感じました。



杉本 翔太
男鹿地区消防一部
事務組合消防本部

六月二五日、二六日にあきた病院に施設実習に行きました。まず始めに病院の概要などを教えてもらった後に、班ごとに分かれて各病棟での研修となりました。自分は筋ジスト病棟で研修を受けましたが、その患者さんは呼吸器を付けながら生活している人、電動車イスで生活している人など様々な患者さんがいました。患者の皆さんは自分が思っていたより普通に生活していることに驚きました。

病棟の看護師さんからは、患者さんに対応する時に気を付けることを教えていただきました。例えば、筋ジストロフィーの患者さんは骨がもろくなったりしているので、動かすときに物との接触を避けたりするよう気を付けました。また、次に何をするかなどをしっかりと相手に伝えることが大事だと思いました。食事の際は、食べる量やスピードを患者さんに合わせ、何を食べたいかなどをしつかり相手とコミュニケーションを取ることが大事だと感じました。

今回の研修を受けて、火災や救急現場のときに、このような患者さんに会った場合、どのように接したらよいかなど教えていただき、とても

貴重な体験をさせてもらいました。実際の現場でも今回の経験を生かしていきたいです。



秋山 隼人
大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部

六月二五、二六日の二日間、国立あきた病院で施設実習が行われた。

一日目、神経難病病棟において実際に患者さんと触れ合った。神経難病の患者さんのほとんどが自分で歩いたり、話すことが上手くできないが、相手の話はしっかりと聞き取れるそう。散歩の際、私はそのことが頭にあつたので一生懸命患者さんに話しかけてみた。そうすると、スムーズに返事は返ってこないが、どうにかしゃべり返してくれた。わざわざかではあるが、身振り手振りで応えてくれた。タンポポの花を欲しがるとぶりをしたので、とってあげてみると喜んでくれた。それを散歩が終わるまで、ずっと握りしめていてくれたのが、とても心に残っている。

二日目は、施設内全体を見学した。医療の技術はとても進歩していて、全く動けなくしゃべることができない人と会話ができるように、唯一少しかだけ動かせる顔の一部の筋肉のところに機械を付けて、そのわずかな筋肉の動きを利用して会話をしてい

た。このことにはとても驚いた。この二日間を通して、普段経験できない貴重な体験ができたと思う。消防職員として災害現場では、いつでもどこでどのような人を助けに行くか分からないが、人と関わる仕事に違いはないので、この経験を今後に生かしていきたい。



阿部 達也
湯沢雄勝広域市町
村組合消防本部

今回のあきた病院での研修では神経難病の方々と接することができ、初めての経験であった。ALS等の場合、原因が分かっているにもかかわらず治療はない。しかし、ALSの方々と接していると、ALSの方々がとても楽しく生活しているんだなと感じた。口の周りの筋肉が弱くなってしまう、上手く発音ができない方がいたが、看護師の方々は相槌をうちながらとても丁寧に聞いていた。救急現場でもALS等の神経系の疾患を持っている方々を搬送するときがあると思うが、落ち着いて耳を傾け安心させて話をさせることが大切なんだなと改めて感じることができた。

神経系の疾患を持っている方々は特に一生涯、あきた病院で過ごす

いうことを聞かせていただいた。また、その方々が楽しく人生を全うできるように努力をしているという話を聞き素晴らしいことだと思った。救急の現場でも同じことかどうかから傷病者の方が楽な呼吸ができるか等ということを中心に考えなければいけない。

今回の研修では、特に相手の立場を考慮することが大切だと改めて感じたため、優しく、時には厳しくなれる消防士になりたいと思った。

若手消防団員を対象とした

行事開催準備委員会

七月三十一日(火)、ルポールみずほ(秋田市山王)において、「若手消防団員を対象とした行事開催準備委員会」を開催しました。

この委員会は、若手の団員を対象とした行事を開催し、県内各消防団の活性化を図るとともに、消防団員の確保対策にも繋げることを目的として、若手消防団員が自ら行事を企画・実施するために設置したものであります。

若手消防団員を対象とした 行事開催準備委員名簿

| 所 属 | 階 級 | 氏 名 |
|------------|-------|-------|
| 鹿角市消防団 | 班 長 | 板橋 知也 |
| 北秋田市消防団 | 班 長 | 長岐準之介 |
| 能代市消防団 | 団 員 | 小沼 直久 |
| 八郎潟町消防団 | 班 長 | 加賀谷真央 |
| 秋田市消防団 | 団 員 | 新田 宏宙 |
| 由利本荘市消防団 | 部 長 | 有馬 祐平 |
| 美郷町消防団 | 団 員 | 佐々木和寛 |
| 横手市十文字消防団 | 団 員 | 新山 武 |
| 羽後町消防団 | 副分団長 | 石垣 亮 |
| 能代消防署 | 消防士 | 田中 真美 |
| 秋田市消防本部 | 消防士長 | 浅利 芳和 |
| 大曲仙北広域消防本部 | 消防副士長 | 富田 洋介 |

開催準備委員は、各協会支部から一名と消防職員三名の方々に就任していただきました。

今回の委員会では、この準備委員会を設置した目的や行事を開催するにあたっての検討事項について協議したほか、同日に開催された「女性消防団ネットワーク会議開催準備委員会」に参加しました。

なお、次の委員会は一月に開催することとしました。



地域の防災、災害対策に貢献！

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651

モリタ消防ポンプ シバウラポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 **能代消防センター**
株式会社 **協 立**

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

支部情報アラカルト

「大仙仙北美郷支部消防訓練
大会が開催されました」

美郷町消防団

去る七月一四日、「大曲の花火」公園において開催された「秋田県消防協会大仙仙北美郷支部消防訓練大会」に出場してまいりました。各市

町の大会を勝ち抜いた精鋭団員が一堂に会すなか、本町消防団も出場選手や応援の幹部など総勢五五〇名が熱戦を繰り広げ、日ごろの訓練成果を存分に発揮できた大会となりました。



なかでも小型ポンプ操法の部では、前年度優勝チームの第二分団が、そのプレッシャーにも負けることなく支部連覇を達成しました。第二分団長は、「地域住



民の生命と財産を守るために行っている日々の訓練であるが、このように大会という形で成果をあげられることは、団員にとつても大変励みになる。今後も更なる訓練を積み重ね、地域の安全安心のための大会として、上位入賞目指して取り組んでいきたい。」と抱負を語っていました。



さあ、各支部代表の皆さん！次は聖地「秋田県消防学校」での全県消防操法大会です。控えめに晩酌する日々がもう少し続きますが、地域の安全安心のためにも、もう一踏

ん張り頑張ろうではありませんか！我が美郷町消防団も、大仙仙北美郷支部代表の名に恥じないよう、「全県優勝」目指して頑張ります！

〔情報提供〕大仙仙北美郷支部

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

| | 平成30年 | | 平成29年 | | | 同期比較 | |
|---------|-------|-----|-------|-----|-----|------|-----|
| | 7月 | 累計 | 7月 | 累計 | 年計 | 7月 | 累計 |
| 建 物 | 9 | 89 | 9 | 104 | 166 | 0 | -15 |
| 林 野 | 1 | 19 | 0 | 18 | 19 | 1 | 1 |
| 車 輛 | 4 | 24 | 2 | 18 | 30 | 2 | 6 |
| そ の 他 | 7 | 44 | 2 | 41 | 51 | 5 | 3 |
| 合 計 | 21 | 176 | 13 | 181 | 266 | 8 | -5 |
| 死 者 数 | 1 | 11 | 1 | 12 | 24 | 0 | -1 |
| 負 傷 者 数 | 6 | 24 | 7 | 42 | 77 | -1 | -18 |

第55回

秋田県消防操法大会開催のお知らせ

秋田県と秋田県消防協会は、消防団員の消防技術の向上や士気の高揚、消防活動の充実強化を図るため、秋田県消防操法大会を開催します。

多くの方々のお観戦をお待ちしております。

開催月日 平成30年9月1日(土) 午前9時から

開催場所 由利本荘市岩城

「秋田県消防学校 放水訓練場」

競技種目 小型ポンプ操法、軽可搬ポンプ操法、ポンプ車操法(競技順)

※ポンプ車操法の優勝団は、全国大会に出場します。(10月19日 富山市で開催)

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕 力 吉

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シバラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp